

自由なカリキュラムを選択し、異なる視点から服飾を追求

# 武蔵野美術大学

## 造形学部 空間演出デザイン学科

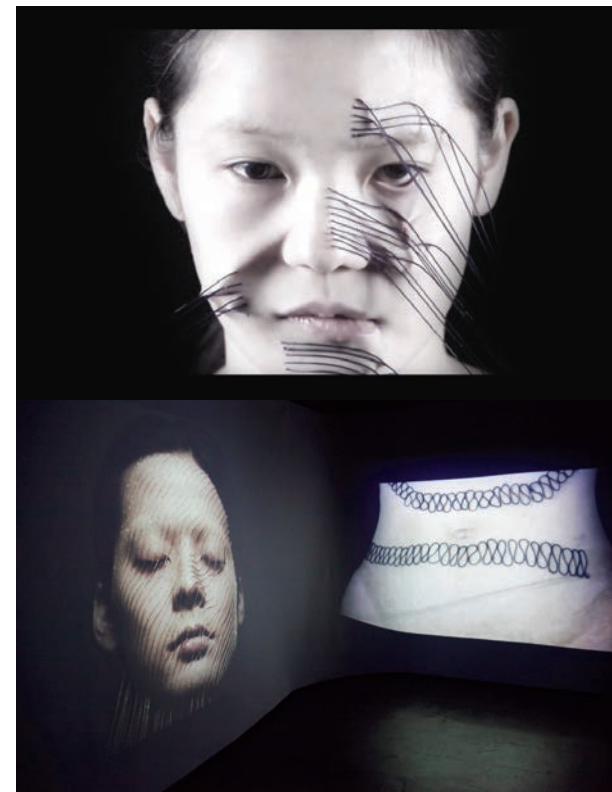
今、アートとファッションが好きな人たちが注目しているのが“美大でファッションを学ぶ”ということ。縫製やパターンなどの技術を最優先するなら服飾の専門学校に勝るものはないが、ファッションを服単体ではなく現象として捉え、空間演出という視点を交えるならば“ムサビ”のカリキュラムはとても魅力的だ。空間演出デザイン学科では3年次からファッションデザインコースの選択が可能だが、それまでの間に服飾に縛られない発想が養われる。1年次には舞台美術家の小竹信節によるデザインと空間を考える基礎実習や、インテリアデザイナー片山正通らによる空間とは何か

を考える講義などが、2年次には照明学などのほか、グループ制作などでリアルな空間の追求を行う。そうして空間表現への意識を高めたうえで、3年次後期より各教授のゼミに。無印良品のファッションディレクションを担当した天野 勝、ヤブ・ヤムのデザイナー・パトリック・ライアン、ファイナルホームのディレクター津村耕佑というデザイナーの直接指導で、デザインだけでなく広報なども含めた服飾に関わるトータルな技術とプロデュース能力を学習。衣服を取り巻く環境研究し、服飾の常識にとらわれることなく、今後のファッションの役割を、自由な発想で追求できるだろう。



2016年度、天野ゼミ・市森天帆による卒業制作「POTTERY」より。

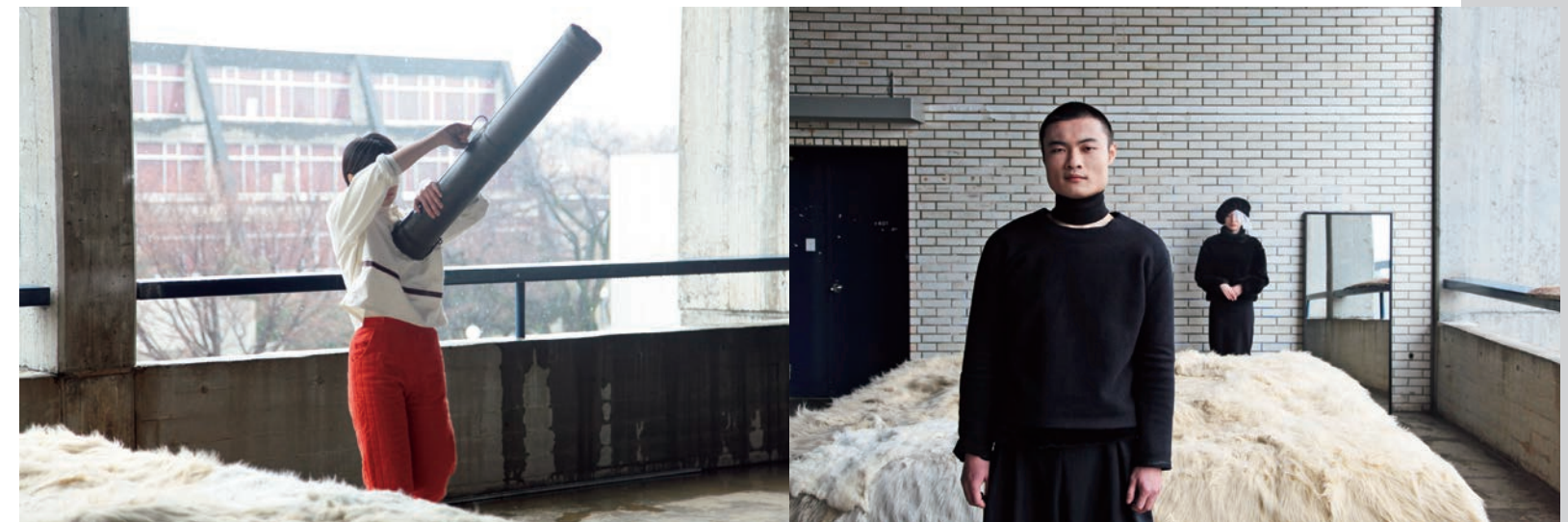
服飾の基礎に縛られない自由な発想  
美大でファッションを学ぶ意義とは。



2014年度、パトリックゼミ・八島良子による卒業制作「undergo」より。



2015年度、津村教授の指導による3年次ファッションコースのファッションショー「田(でん)」。産学協同企画として千葉県いすみ市の漁港にてファッションショーも行った。



2011年度、パトリックゼミ・青山かほり、坂倉圭一による卒業制作「INDIVIDUAL RESTORATION」より。



2017年、パトリック教授による、民族衣装の現在をリサーチして行われた2年次のファッション選択授業「ethnic is current」。タイトルは「憧れの庭」。砂とともに個人のフェチなどを込めてつるした洋服をほどこしたところに砂が落ちて自分の庭ができ、そこから人類が変化したことを表現。



3年次のファッションコースでは、毎年オープンキャンパスに合わせファッションショー「MAU collection」を開催。これは今年6月、学生の伊藤誠一郎さんがディレクションを担当したショーの写真。「自分の考えるファッションを人に伝えること、そしてデザインした衣服や物に込めた意味が効果的に伝わるための方法を考えることを目的としています。今回は、みんながもっとおしゃれにいたいという気持ちを込めて、タイトルを「PRAY(祈り)」にしました。一人一人の作品や課題をまとめるだけでも大変なのですが、演出や広報も含めすべて1か月で完成させるという、むちゃくちゃな課題もムサビならではのなんです(笑)。(伊藤)

### 在学生に聞く。なぜ、美大を選んだのか？



武蔵野美術大学 空間演出デザイン学科 3年次ファッションコース  
伊藤誠一郎さん(左)、島谷達広さん(右)

「映画やセノグラフィに興味があってこの学科に入学しましたが、ファッションの授業を受けてこの道に進みたい!と感じるようになりました。なぜ自分が服を作るのか、作らなければいけないのかなど、本質的な気づきのある授業が多いですね。美大でファッションを学ぶよさは、自分が感じていることを、厚くましくなく表現できること、自分がしたいこと、社会の動向を掛け合わせることの重要性を知ることができました。個人のアイデンティティも大事ですが、洋服を空間とともに捉えることにより、その空間で服を着る人の感覚を優先することも大事だと理解できたからです。服も大事だけれど、服を通じて何を伝えられるか、感じてもらうかが大事。自分の好きと、世の中を結びつことを学んでいます」(伊藤)

「もともとファッションを学びたいと服飾学校を調べていたのですが、有名なファッションデザイナーが必ずしもすべてを専門学校で学んだわけではないことに気がつきました。そこで、服飾以外の知識や感覚も身につけたいと考え、この学科を選びました。入ってみると1年次にはセノグラフィやテキスタイルなどが受講できたり、学内では彫刻を学ぶ学生と友人になれたり。ムサビの人脈でファッション以外の興味や知識が増え、そのどれもが表層的ではないために発想の奥行きや視野が広がりました。かつてはファッション=服だと考えていましたが、食やインテリアなど異なるモノとファッションが交わる空間が何かを伝えるのだと気がつきました。今後の自分の人生を変えてくれると思います」(島谷)

### 美大ならではの豪華教授陣

空間演出デザイン学科にはセノグラフィ、インテリアデザイン、環境計画、ファッションの4コースがあり、1・2年次は相互に交差してカリキュラムの取得が可能。現在活躍する教授たちの講義を自由に選択できるのは魅力。

- |                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 小竹信節<br>舞台美術家 アートディレクター | 小泉 誠<br>家具デザイナー           |
| 太田雅公<br>衣装デザイナー         | 鈴木康広<br>アーティスト            |
| 池田ともゆき<br>舞台装置家         | 天野 勝<br>ファッションデザイナー       |
| 五十嵐久枝<br>インテリアデザイナー     | パトリック・ライアン<br>ファッションデザイナー |
| 片山正通<br>インテリアデザイナー      | 津村耕佑<br>ファッションデザイナー       |

<http://www.musabi.ac.jp/>

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736  
お問い合わせ:TEL042-342-6995(入学センター) 9時~16時30分(日曜・祝日除く)

真夏のオープンキャンパス2018 開催! 8月18日(土)、19日(日)10時~16時  
教員による模擬授業や各種ガイダンスを実施。予約は不要。